

第 1 回動物用ワクチン戦略検討会議事概要

- I 日時：令和 6 年 6 月 21 日（金）13:30～16:00
- II 場所：農林水産省消費・安全局第 4 会議室
- III 出席者：別紙 1 のとおり
- IV 概要：
 - 1 我国の動物用ワクチンをめぐる情勢と課題について認識を共有した。
 - ・家畜の伝染性疾病の発生予防や薬剤耐性（AMR）対策には、適切な飼養衛生管理とともに、動物用ワクチンの活用が重要。
 - ・日本の市場規模は世界と比較して小さい一方で、家畜の多いアジアに位置しており、防疫戦略を踏まえた生産現場で必要とされるワクチンの開発促進や安定的な供給等に向けて、中長期的な戦略の策定が必要（別紙 2）。
 - 2 メーカーの委員 3 名より、日本市場の現況・変化の分析、開発や安定供給をめぐる課題、各社の将来の方向性や展望が示された。
 - 3 委員からの主な意見は次のとおり。
 - 戦略的な開発・実用化、最新技術の導入について
 - ・承認審査手続の簡素化などの取組が重要。
 - ・開発や病原体バンクの設置等における産学官の連携体制の構築が重要。
 - ・mRNA ワクチンや経粘膜ワクチンといった新技術の導入等が必要。
 - 供給体制の維持・強化、技術の蓄積について
 - ・緊急時にも備えたデュアルユース型製造施設や共同製造施設の整備・更新が必要。
 - ・技術研修などを通じた人材育成が不可欠。
 - 販売体制の強化について
 - ・輸出のためには製造施設の国際基準（PIC/s）への準拠や国産ワクチンのブランド化が必要。
 - ・ワクチンプログラムの提供によるワクチンの活用促進が必要。
 - 4 引き続き議論を行った上で、動物用ワクチン戦略（中間取りまとめ）として、取りまとめることとした。

別紙 1

第 1 回動物用ワクチン戦略検討会 委員出欠表

(令和 6 年 6 月 21 日)

氏 名	現 職	出欠	参加方法
いけだ かずき 池田 一樹	公益社団法人 日本動物用医薬品協会 理事長	出席	対面
おざわ まこと 小澤 真	国立大学法人 鹿児島大学共同獣医学部 准教授	出席	Web
かわしま けんじ 川罵 健司	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 研究推進部長	出席	対面
くれ かつまさ 呉 克昌	一般社団法人 日本養豚開業獣医師協会 代表理事	出席	web
たつかわ ふみお 立川 文雄	公益社団法人 日本獣医師会 産業動物臨床職域理事	出席	対面
ながい しんや 長井 伸也	日生研株式会社 代表取締役社長	出席	対面
ながい としむね 永井 寿宗	株式会社ESAC 代表取締役	出席	web
ながい まこと 長井 誠	学校法人麻布獣医学園 麻布大学獣医学部 教授	欠席	—
にし ひでき 西 英機	共立製薬株式会社連携（委託） エグゼクティブ・アドバイザー	出席	対面
の ろ たいち 野呂 太一	株式会社微生物化学研究所 執行役員	出席	対面
まつだ けいいち 松田 敬一	宮城県農業共済組合 第二事業部次長	出席	対面

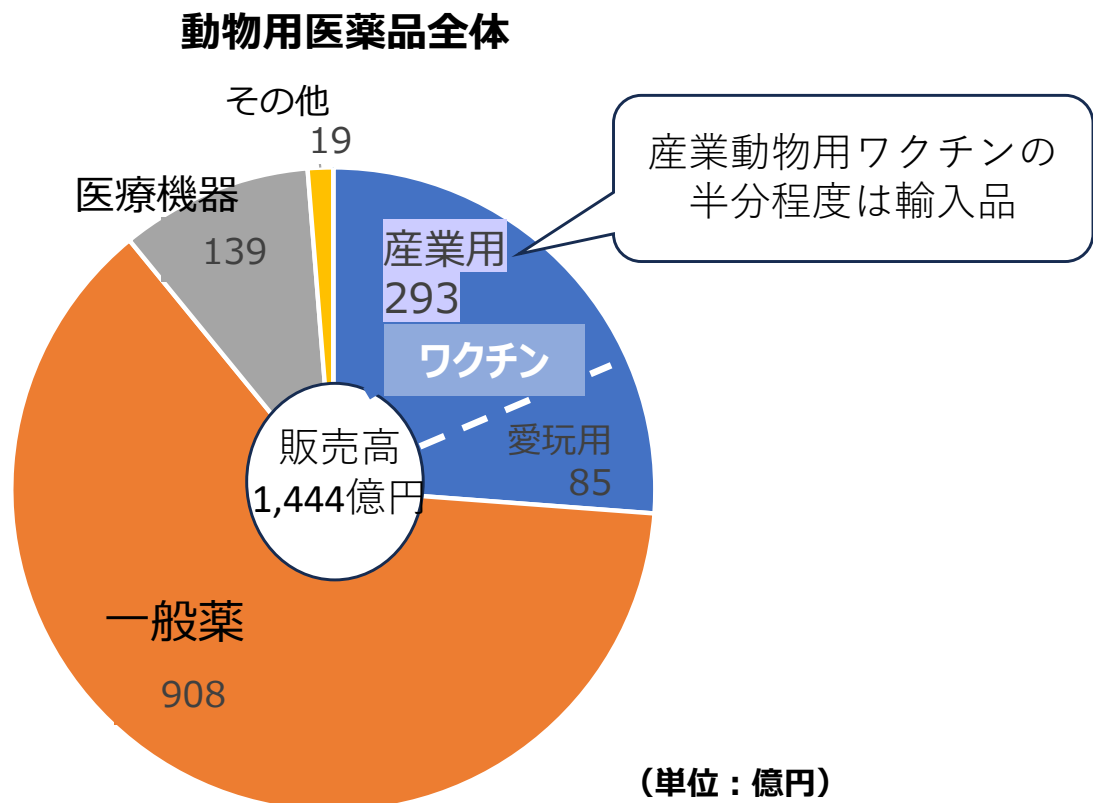
(氏名五十音順)

日本の動物用医薬品業界の概要（令和4年度）

- **国内の動物用医薬品の販売高：約1,444億円** ➡ **世界の動物用医薬品市場の約40分の1**（参考）豚の飼養頭数
日本は、世界全体の1%未満
アジアは、世界全体の約6割
- **主要メーカー：64社**（令和6年4月時点における日本動物用医薬品協会の会員数）

世界的に展開する**グローバル企業**と**日本企業**があり、**日本企業は中小企業**

産業動物用ワクチン販売高（令和4年度）



産業動物用ワクチンをめぐる課題

- 兼業メーカーは人用医薬品等に資源を集中
（大手人用医薬品メーカーは、動物薬事業から撤退）
- 採算の取れないワクチン等は製造中止となる傾向

国内の開発・製造体制が減退

- ・製品の終売
- ・供給不安